

〔研究主題〕

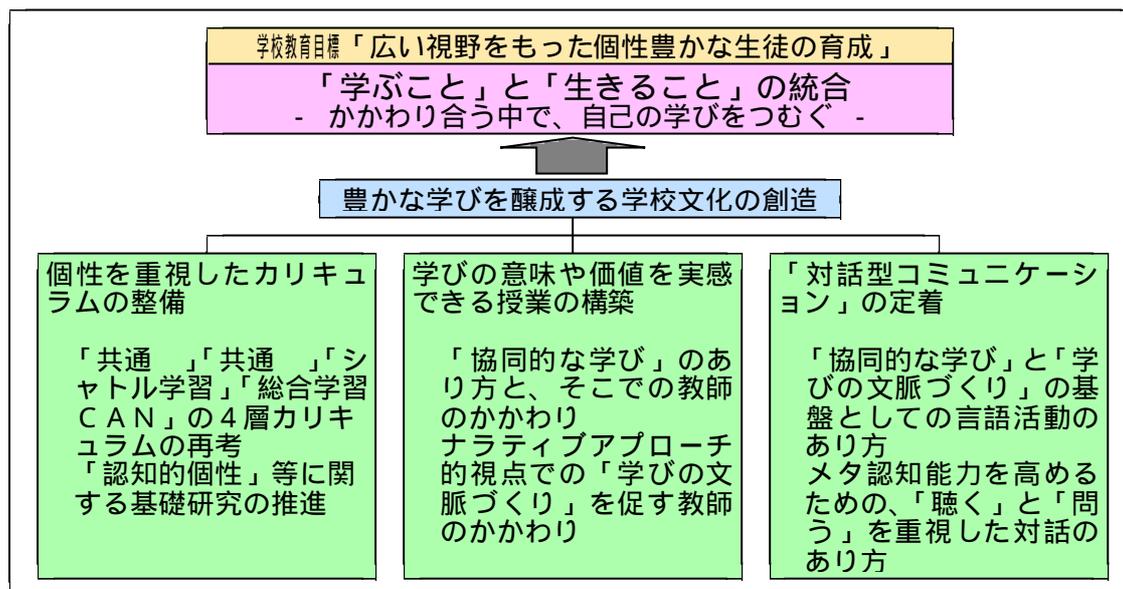
「学ぶこと」と「生きること」の統合

- かかわり合う中で、自己の学びをつむぐ -

1 研究主題設定の経緯

今期は、「自己の学びを文脈としてとらえ、それを更新すること」をより一層重視するとともに、「協同的な学び」のあり方と教師のかかわりについて、よりよい対話状況の定着を基盤として追究していく。また、個性に関する実践的基礎研究を推進し、カリキュラムのさらなる整備を進めていく。

2 研究構想図



3 研究の内容

(1) 個性を重視したカリキュラムの整備

- ・ 「学習特性に応じた探究方法習得型選択学習」としての「シャトル学習」の再考
- ・ 「多様な個性を活かした探究型自由学習」としての「総合学習CAN」の再考
- ・ 教科学習である「共通学習」と「共通学習」のさらなる整備（特に「共通学習」と「シャトル学習」との関連の見直し、「共通学習」の重視）

(2) 学びの意味や価値を実感できる授業の構築

- ・ アクションラーニングの手法を活かした「協同的な学び」と、ナラティブアプローチの考え方を援用した「学びの文脈づくり」のあり方の追究
- ・ 授業における教師のかかわり方と授業構築の質的向上

(3) 「対話型コミュニケーション」の定着

- ・ 全教育活動を通じての、「一人一人の認識世界を再構築するための対話を促す、相互的、平等的、互惠的な通じ合い」の実践
- ・ 「聴く」と「問う」を重視した、生徒のメタ認知能力を高める対話の実践

(4) 豊かな学びを醸成する学校文化の創造

- ・ 生徒の気づきを生み出す空間づくりの推進および特別活動・道徳の時間等とのリンクの整理

4 次期研究大会予定

平成24年6月開催予定。具体的発表内容及び講師等について今年度中に決定する。